

平成28年6月

東京藝術大学 大学改革・機能強化推進戦略 2016

本学においては、平成26年10月に策定した「大学改革・機能強化推進戦略」を推進すべく、“オール藝大”体制の下、“世界の頂”へと飛躍するために、前例なき革新的な取組を断行して、着実に実績を挙げてきた。

同戦略の更なる加速化を図るべく、特に本年度においては、「キャリアデザイン構築」を戦略の基軸として、大学入学前から卒業後のキャリアパスまでを見据えた人材育成・サポート機能を組織的に強化するとともに、近年、学生や教職員のニーズが多様化・複雑化していることや、学外との関係性が重要となっている現状を踏まえた、新たな取組に挑戦していく。

昨今、経済的安定性を求める風潮から、芸術家への道を断念してしまう傾向が強まっている現状に鑑み、大学入学以前の、できるだけ早い段階から、芸術との接点を継続的に持つことができる社会環境を、大学から積極的に提供するとともに、大学卒業後の将来ビジョンの提示や、卒業後も含めた継続的なキャリア支援等、総合的なサポートシステム構築を目指す。

また、授業料免除や奨学金制度等の経済的支援の拡充はもとより、海外留学をはじめとする学外での芸術活動支援の充実を図り、昨今の留学生や外国人研究者、女子学生・女性研究者の急増への対応をはじめ、障がいをもつ学生等への配慮等を踏まえたキャンパス機能強化や支援体制構築等、ダイバーシティな大学環境整備やシステム構築に努めていく。

さらに、学外との連携強化に関しても、全国的な芸術活動等を継続していく上で、地方自治体等との連携協力が必要不可欠であることや、芸術力を活かした新たなイノベーション創出等を推進するためには、大学や産業界等との連携強化が必須であることを踏まえ、お互いに価値を認め合うことのできるパートナーシップの構築を目指す。

とりわけ、大学連携に関しては、国内外の芸術系大学との連携基盤を一層強固なものとするこゝで、教育研究機能の強化はもとより、スケールメリットを活かした諸活動を展開し、芸術文化の価値を一層高めるとともに、芸術系以外の諸分野との連携も推進することで、芸術の持つ可能性を活かした未知なる成果の創出、新たなフロンティア開拓へと繋げていく。

加えて、来年は、創設130周年目となる記念すべき年であることを踏まえ、これを契機に、同窓生をはじめとする大学支援者との緊密な連携協力関係を構築すべく組織的に取り組むことで、同窓生等との繋がりを実質化して普遍的なネットワーク作りに努めていく。

その他、広報・渉外活動に関しては、社会的ニーズを的確に踏まえた諸活動を展開し、東京藝術大学独自の、受け手の五感に訴える独創的な表現、効果的なタイミング・手段により、効果的に情報を発信するとともに、教育研究や芸術活動に対する正当な評価が得られるよう、戦略的なプロモーション活動に努めていく。

以下、加速化に向けて、本年度重点的に取り組むべき主要なアクションプランを示す。

■ アクション①：

グローバル展開 / イノベーション創出 / キャリア支援

<世界トップアーティストの戦略的育成の推進>

- 芸術研究院をはじめ、新たな大学院組織整備を契機に、更なる教育研究組織の強化・充実を図るとともに、海外一線級アーティスト等のユニット誘致による国際共同プロジェクトを推進することとし、さらに、早期教育プロジェクトを発展させたジュニア・アカデミーの創設や、大学院博士課程における国際共同学位審査の実施等の新たな取り組みによる教育システム改革を断行し、世界トップアーティストの戦略的育成を加速度的に推進する。

<国際的芸術教育研究拠点の形成>

- 国内の大学・研究機関等との連携・ネットワーク基盤を拡充しつつ、海外一線級のアーティスト等のユニット誘致による体制強化を図るとともに、若手研究者や学生を中心とした海外派遣の拡充等、国境を超えた相互交流や芸術文化外交を促進し、国際共同プロジェクト等諸活動を組織的に推進することで、アジアはもとより、世界的な芸術教育研究拠点としての国際プレゼンスを確立する。

<革新的アートイノベーションの創出>

- 伝統的な芸術文化の継承・振興はもとより、芸術の持つ可能性を活かした分野融合・横断による学際的研究開発を、国内外の産学官連携基盤等を活かして総合的に推進することにより、新たな産業創出等フロンティア開拓をはじめ、現代社会が抱える諸課題の解決に資する社会システム改革等、芸術を起点とした革新的なイノベーション創出・社会実装化を先導する。

<入試改革・高大接続モデルの構築>

- 国境を超えて多様な個性・感性を有する人材を広く獲得・育成する観点から、従来の入学者選抜に加え、国際バカロレア資格の活用等を含めた、新たな選抜方法の導入を推進することとし、特に音楽分野においては、早期教育システムの拡充をはじめ、附属高等学校と大学との継続的・体系的なカリキュラム構築や飛び入学制度の活用等、新たな高大接続モデルの構築を目指す。

<キャリア支援プログラム・経済的支援の強化>

- 世界トップアーティストの戦略的育成と連動した教育システム改革の一環として、産業界等との連携基盤を活かしたキャリア支援プログラムの充実や国内外への教育研究成果の発信・普及等、組織的なプロモーション機能を強化し、在学中はもとより、入学前や卒業後も含めた継続的・総合的なキャリア支援を実行するとともに、新たな奨学金制度の創設等、経済的支援を充実させる。

■ アクション②：

全国展開 / パートナーシップ構築 / ソーシャルプラクティス

<アートプロジェクト・早期教育プロジェクト等の全国展開の推進>

- 2020年東京大会を視野に入れた文化プログラムの実行はもとより、国内全域における芸術活動を通じた地方創生を牽引すべく、アートプロジェクトや早期教育プロジェクトの実施等、地域の芸術文化潜在力を活かした全国的な活動を組織的に推進する。

<産学官連携強化・パートナーシップの構築>

- 2020年東京大会を視野に、我が国の芸術潜在力を発揮すべく、芸術系大学が連携して、人材育成や芸術文化活動等を持続的に展開していくためのプラットフォーム作りを先導するとともに、芸術の持つ可能性を拡げるため、国・地方自治体をはじめ、国内外の大学や研究機関、産業界等との連携を一層強化し、芸術というジャンルや既成概念にとらわれないボーダレスなパートナーシップを構築する。

<芸術の力を活かしたソーシャルプラクティスの推進>

- 東日本大震災や熊本地震等大規模災害に対する復興支援をはじめ、子どもから高齢者、障がい者等を含めた全ての国民が、お互いに人格・個性を尊重し、共生する社会を実現するため、芸術の持つ力を最大限活かしたソーシャルプラクティスを組織的に推進する。

■ アクション③ :

ダイバーシティ推進 / マネジメント改革 / ネットワーク基盤構築

<ダイバーシティな大学環境整備・システムの構築>

- 昨今の留学生や外国人研究者、女子学生・女性研究者の大幅な増加、障害を有する学生等への配慮等を踏まえた改革として、支援体制や支援メニューの充実をはじめ、キャンパス機能の強化・充実を図るとともに、女性教職員の計画的採用や上位職登用等新たな人事システムを確立するなど、ダイバーシティな大学環境整備やシステム構築を総合的に推進する。

<教育研究・芸術活動成果の社会還元等プロモーション活動の実行>

- 大学における諸活動や成果を集約して体系的に整理し、多様なネットワーク、広報ツール等により、的確かつタイムリーな広報活動を戦略的に展開するとともに、国内最高峰の芸術創造・実践の拠点として、我が国における芸術文化活動への投資・寄附文化等を普及・定着させるべく、教育研究や芸術活動に係る成果物の社会還元・流通等を通じた芸術価値創出のための戦略的なプロモーション活動を実行する。

<持続可能型キャンパスマネジメントシステムの確立>

- 世界水準の教育研究活動を展開するための先端的な施設設備の充実をはじめ、ダイバーシティ推進やアメニティ向上、地域社会との共生等、多様なニーズに対応した最適なキャンパス環境を実現するため、施設整備・維持管理コスト等の現実的課題も踏まえつつ、中長期的な視点からキャンパスグランドデザインを検証・再構築することにより、持続可能型のキャンパスマネジメントシステムを確立する。

<経営力強化・財務運営基盤の構築>

- 昨今の行財政事情を踏まえつつ、大学の自律的な発展を目指すため、中長期的な視点から、教育研究組織や人員配置、業務内容の見直し等、学内資源の合理化や再配分等を検討するとともに、藝大基金の更なる拡充をはじめ、新たな教育プログラムの実施や成果物の社会還元・流通等による外部資金の獲得等、ファンドレイジングを戦略的・組織的に推進することにより経営力を抜本的に強化し、安定的・持続的な運営基盤を確立する。

<同窓生・支援者等とのネットワーク基盤の構築>

- 創設130周年に向けて、同窓生との持続的・発展的な繋がり・相互交流の確保をはじめ、学外関係者や支援者等との緊密な連携協力関係の構築に向けて、大学が主体となって組織的に取り組むことにより、普遍的なネットワーク基盤を構築する。